

北澤翠香先生選評



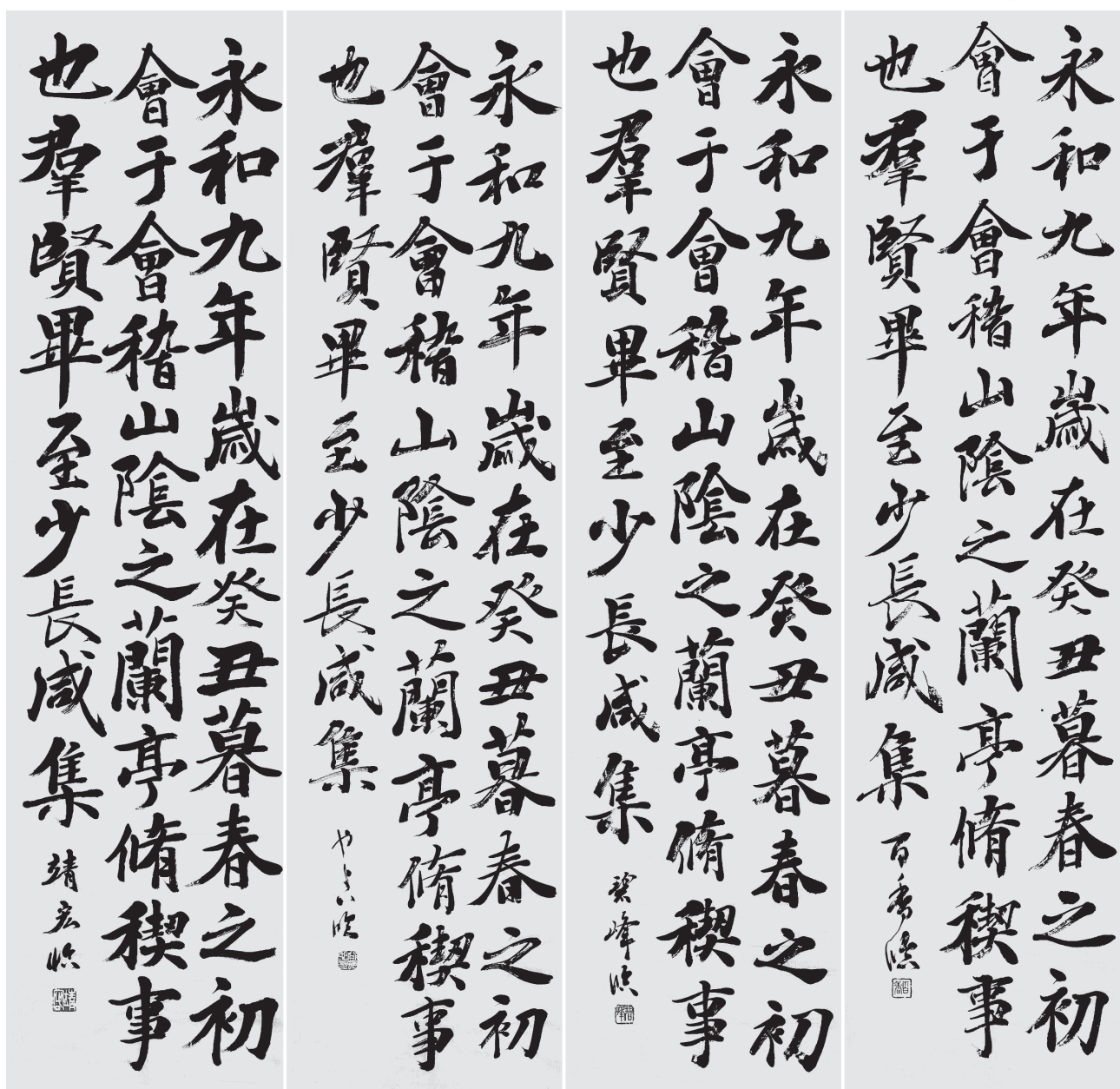
阿山 珠華 推選
運腕が大きく筆の抑揚が巧みで、十分歌を理解し筆者の情感をダイナミックに謳いあげている力量に感服。オペラを聞いているようで気分が昂まる傑作。

田尻 白華 推選
筆先を自由に操り、墨量の変化、一行目二行目のバランス、微妙な文字の傾きが効果的に味を出し、落款もピタッと嵌っていて、美意識に感嘆する逸作。

鰐井 香織 推選
水平に引かれた横画、隸意のある終始一貫した運筆が、揺るぎない素朴性と温かさを醸し出し、時折見せる細線が重くなく明るい表情となり、魅力溢れる妙作。

朝三 皋如 推選
力まず粘りのある線のうねりが、沈着した妙ある潤渇となり独創性のある作風を生み出している。楚々とした風情が漂い、絵画を観ているようで心地よい。

高野清玄先生選評



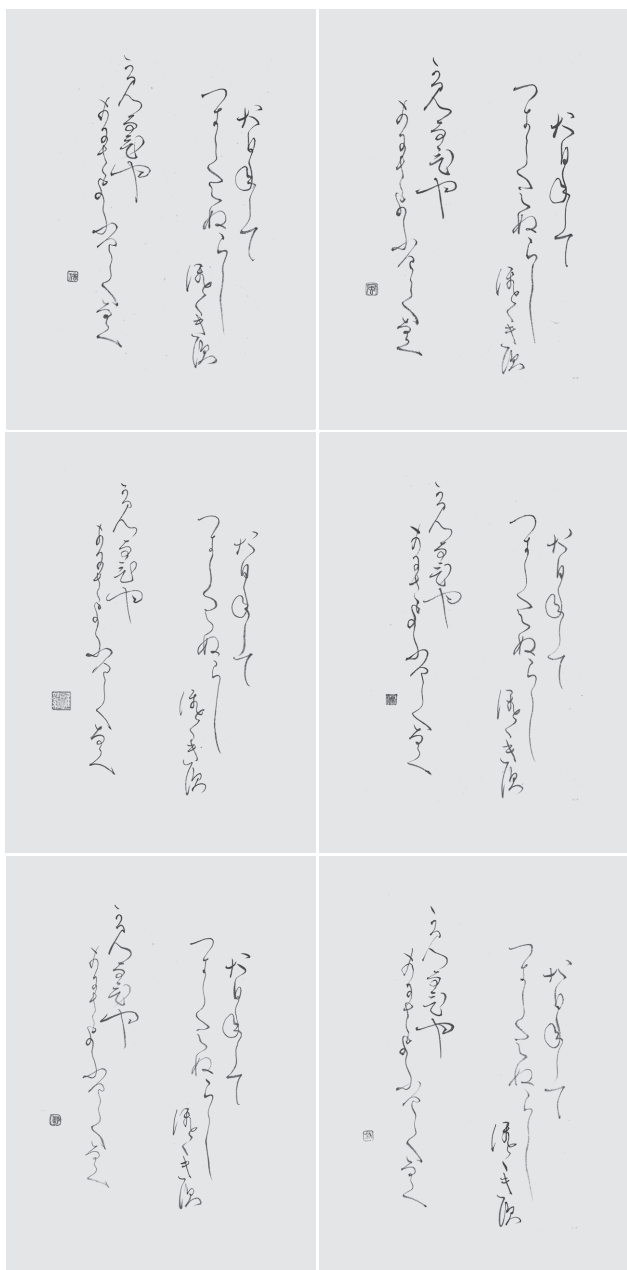
大竹 百香 推選
筆毛の弾力が活かされて穂先が紙面を強くとらえている。細線が生き生きと伸びやかに書かれた為に余白が美しく明るく健康的に表現され魅了する作品となった。

藤井 碧峰 推選
筆が立ち上がり線に安定感がある。文字はしっかりと正面を向いて落ち着きを感じさせる。三行の章法が確實で半切への配置構成が完璧で余裕がある作品である。

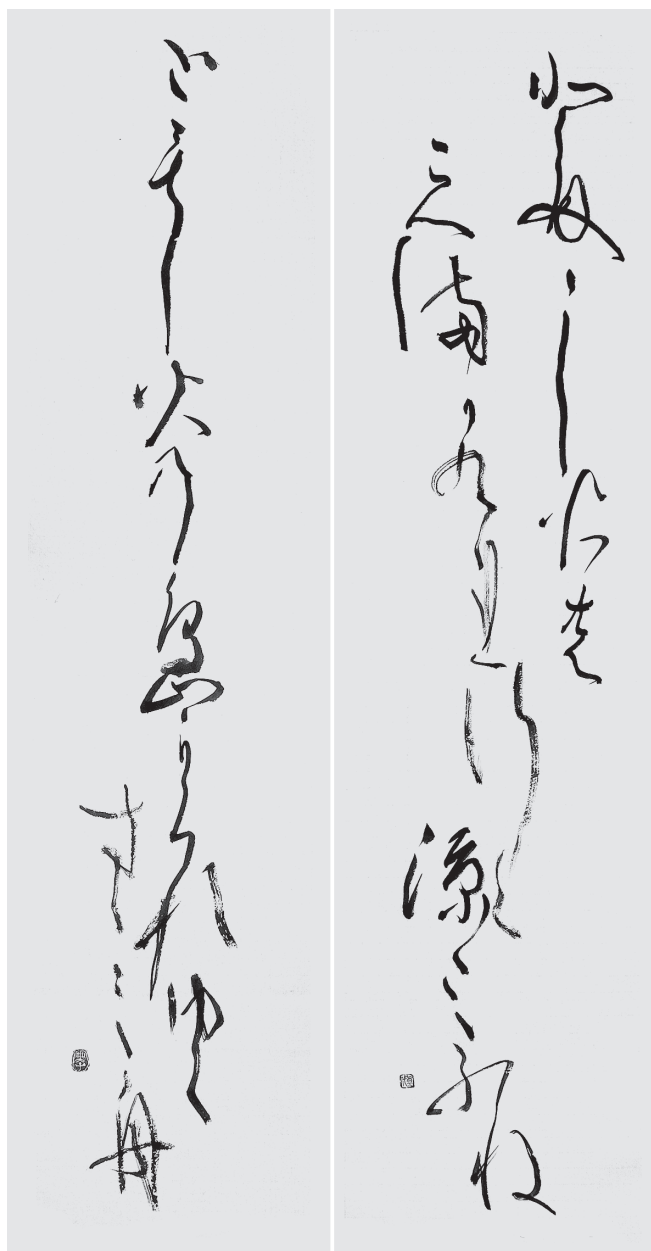
谷村 やよい 推選
羊毛の渴筆が美しい。潤渴の変化が自然で動きと流れそして立体感のある作品に仕上げられた。力みがなく筆の浮沈を楽しむがごとき運筆は魅力的で惹かれる。

東 靖宏 推選
原帖へ向う真摯な姿勢が見える様な臨書作品である。結体を正確に見て一画一画丁寧に書かれており敬服する。まだ盃が自分の所に流れて来なかったようですね。

佐々木優子先生選評



赤富士北祭先生選評



桜井信吉 準八
原帖を良く習って、線質鋭く大胆な筆致に古典の世界に誘われる感じがする。スピード感ある淀みない美しい連綿をさらに追求して下さい。

岸根進溪 七段
大らかな運筆でリズムに乗り書作された力量ある作品です。さらに筆圧の変化が加わると作品の深みが増すのでは。

吉村 都 準七
丁寧に臨書された素直な運筆に心惹かれる作。四行目少し重いスピードに欠けた線質になったのが惜しい。五行目は見事なりリズムで軽やか。

村上春風 師範
始筆から終筆まで丁寧な運筆。運腕大きくのびやかなリズムで書かれ、香紙切の淀みのない大胆な筆致を習得された力作です。

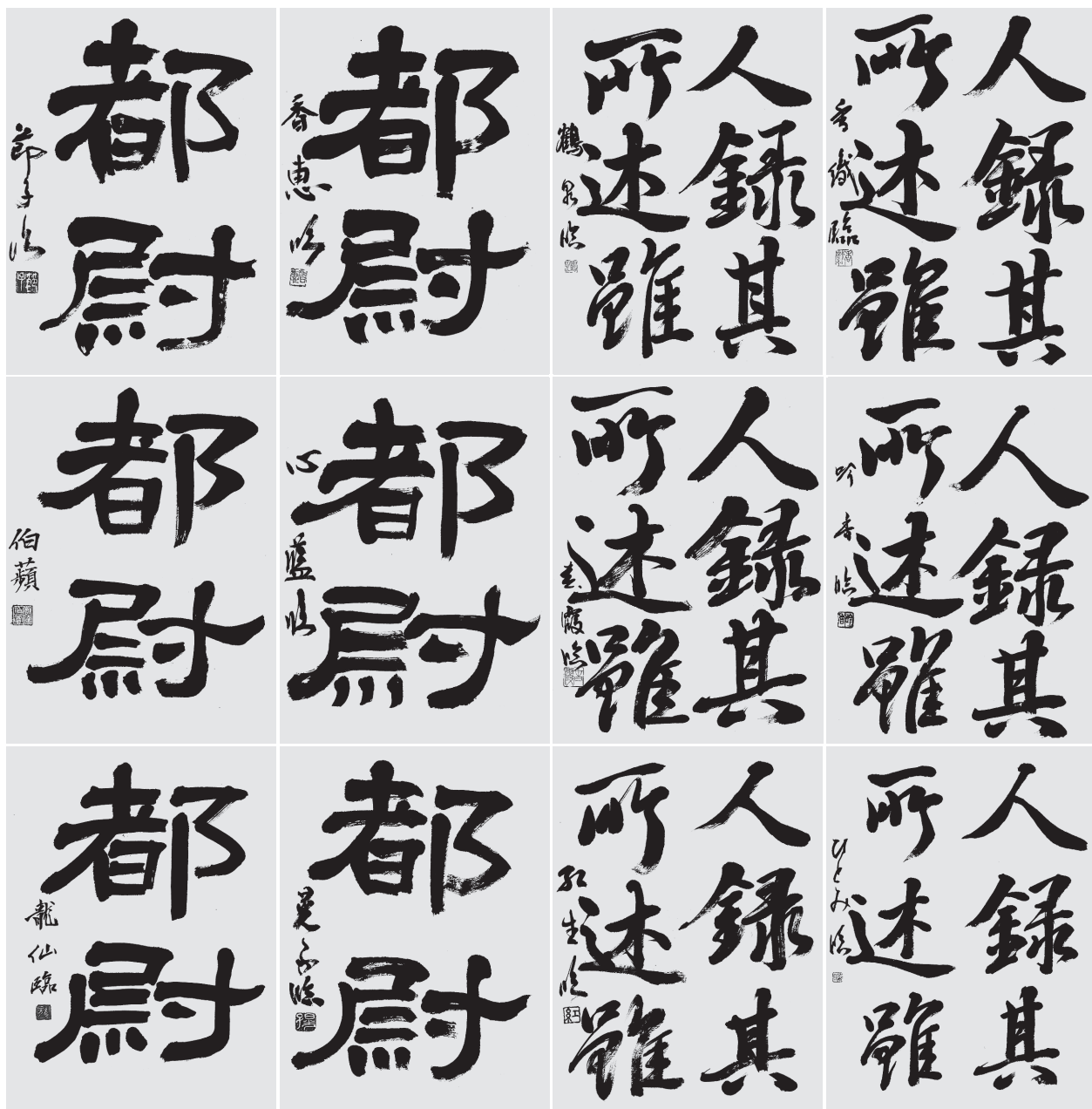
高橋麗水 師範
原帖を大らかな感覚で表現された作品です。手首を柔らかく使って書作された様子。自然な流れが心地良い。

小澤ふさ子 八段
潤滑美しく、筆圧かけて連綿もしつかり、渴筆部分も全体を引き締めている。運筆にスピード感が加わると更に魅力ある作品に。

木村典子 推選
扱いが難しい楮紙系の用紙に、時折穂先を食い込ませるような動きに心地よさがある。間の取り方もよく、長年大字仮名を研鑽された余裕が感じられる作。

小野真代 推選
ゆったりとした書きぶりは古代のおおらかさに通じ、拘った線の表情に味わいが深く、見る者に何かを語り掛けてくるようだ。終句の省略が課題。

藤田壽樹先生選評



鯨井香織 師範

墨痕鮮やかに表現され、作品に輝きがあります。達者な筆致で紙面を圧して素晴らしい。落款も見事に収め、悠揚とした完成度の高い作。

神田鶴泉 八段

大らかな運筆で紙面が広々して余白が美しい作。墨量が一定に見えるのは残念。潤渇の変化を意識したり、運筆の遅速の変化が出ると更に佳。

仲谷香恵 師範

柔毛筆から生まれる温かなぬくもりのある力強い線。実に堂々とした曹全碑となっている。若々しく心意気に溢れた筆致に説得力がある。

森田節子 六段

柔毛筆を駆使しての臨書。線がしっかりしており力量の程を示して秀逸。「都」の最終画の縦画、角度も観察が行き届く。波磔と左払いは一考を。

関村吟香 師範

じっくりとした真摯な運筆は妙麗な線を生み説得力がある。章法では「人・所」がたつぷりと空き、下の「其・雖」が詰った感があり残念。

野々村春霞 準二

墨量豊かに屈託なく筆を運び一気果敢に表現して魅力がある。そのため躍動感に富み生命力に溢れる。今後益々期待するところ大です。

大栗心藍 師範

隸書の特徴である横方向への暢びが大変素晴らしい。収めはビタリと決まって完成度が高く、清涼感に満ちた。真価発揮を高く評価したい。

加土夏実 三段

運筆の呼吸の長さを感じさせ安定感抜群の作。真面目な臨書態度は温雅な味わいを表出して好感を持つ。落款には今一步の研究をのぞみます。

菊池ひとみ 準師

参考手本を基に端正な筆致で品格がある。練熟かつ隙のない作品となっているが、時に原帖を直接見て臨書することも試みて欲しい。

桜庭紅生 五級

じっくりと沈着に取り組んだ表現で運筆のリズムも素敵だ。特に太細の変化が自然で巧緻な趣を醸し出し、完成度の高さと相俟って心惹かれる。

富永晃子 準師

良く沈着した運筆で余裕を感じさせる。リズム良く強い線を求めて緊張感がある。本誌の解説を踏まえた臨書で好感。落款も見事です。

池田龍仙 準初

形体や用筆は隸書の基本をしつかりと把握して表現し見事です。今後は墨量の変化や、運筆のリズム、遅速の変化を意識して制作して欲しい。